2016年12月

仮想通貨の有効性

情報学部　経営情報学科　志村ゼミ
b3p21006　安藤佐恵子

【卒業論文概要】
2016年6月、三菱東京UFJ銀行が独自の仮想通貨（＝MUFGコイン）を開発中と報道された。このMUFGコインをきっかけとして、日本ではどのように仮想通貨が有効になるか考察する。　MUFGの仮想通貨構想とは、利用者が同行口座内の預金を「1コイン＝1円」で交換し、スマートフォンアプリに取り込んで使う予定だ。まず、現行の決済手段の長所や短所と比較し有効性を探る。新技術である「ブロックチェーン」が重要になっている。3章では現在の仮想通貨の種類に触れ、中でもビットコインに注目する。キプロスの経済危機回避や中国での投機対象としてのビットコイン。「なぜビットコインが流行したのか」ということを踏まえて、4章にて日本での位置づけ（＝法律上どのような存在として受け入れられるのか）を、法整備と絡めながら進めていく。最終章ではメガバンクの仮想通貨市場参入や保険の整備、筆者の構想を論じる。